

### 「先着消火隊の無線」

（高速救急支援指令で出場中）  
から本部に対しての「傷病者5名を確認し、2名は自力脱出済みで残り3名が車内に閉じ込められている、救急隊の増強を要請」という無線を傍受。  
「車内に3名が閉じ込められているから、高工ネ用資器材と破壊器具準備考えて」と隊員に告げ現場へ急ぐ。

### 救助隊長の目線から

「現場到着↓災害概況の把握↓救出活動」

N救助隊はS消火隊の車両の後部に停車し、私は隊員に「レスキューツール等の必要資器材の搬送」を指示して、現場を確認するため先行した。

事故車両へ到達する途中の路側帯に男女1名ずつが座位にいるのが確認できた。S消火隊の無線情報「傷病者5名を確認し、2名は自力脱出済み」と合致した。近づいて呼びかけたところ、会話も可能であり、「この先に事故した車がある」との情報を得た。高速警察隊員が先に傷病者に接触していたので、「会話に異変や現在の症状から変化があれば、近くの消防隊まで連絡して下さい」

い」と伝え、当該事故車両へ急いだ。

事故車両付近に到着し普通乗用車の車内を確認するも無人であり、先ほどの傷病者の車であるとすぐに分かった。もう1台の車両（軽四輪自動車）の車内には3名いることが確認できた。助手席の要救助者②については、S消火隊により救出活動中であり、要救助者の状態を聞いたところ、「CPA」と聴取。間もなく徒手にて車外へ救出された。要救助者はS消火隊員1名によ



り胸骨圧迫を実施され、後着の救急隊に引き継がれた。残りの要救助者を確認したところ運転席に1名、運転席後部に1名を確認した。症状を確認したところ、運転席要救助者①にあっては、JCS10でハンドルにもたれかかっている状態で呼びかけに応答があった。

運転席後部の要救助者③についてはJCS300、呼吸・脈拍なしで、早期に救出する必要があると判断、N救助隊とS消火隊で協力し、徒手にて車外へ救出、それと同時にM救助隊が到着した。救出した要救助者については、N救助隊員1名が胸骨圧迫を実施し、救急隊へと引き継いだ。到着したM救助隊長に「現在の活動状況、路側帯に男女2名軽症、車外にCPAの男性2名、運転席に男性1名JCS10」と口頭で伝え、N救助隊員1名に「車内へ進入し、要救助者の観察」を指示した。M救助隊長と救出方法について協議し、助手席からの救出は困難と判断、運転席側からの救出を決定し運転席ドアをレスキューツールスプレッダーにて破壊。ブレーキペダルに左足が挟まれていたので靴を脱がせて解除し、バックボールドを活用して救出、救急隊に引き継いだ。

### 事案を振り返って

今回の事案は、高速道路を逆走する車両が順行する車両と衝突し、5名の要救助者が発生した交通事故であり、要救助者のうち3名が車内に閉じ込められ、そのうち2名がCPA状態という切迫した状況であったが、救出活動にあたる救助隊間は口頭で意思疎通を取ることができたため、連携した活動を実施することができた。

しかし、多重事故や活動場所が複数に分かれている事案、または多数の要救助者が発生しているような災害現場では、出場車両が増隊され活動する隊員も増加するため、情報収集・伝達・任務分担などを明確にする必要がある。

本事案での活動を踏まえ、引き続き訓練を重ねたい。

